

III 業績

1 兵庫県立農林水産技術総合センター研究報告（WEB版）に掲載した事項

なし。

2 外部に発表した事項

(1) 学会誌等

発表年月	内 容	雑 誌 名	提 供 者 名	所 属
H31. 2	播磨灘における海洋環境と植物プランクトンの長期変動解析	沿岸海洋研究 56(2), 73-78	西川哲也	水産環境部
H31. 1	マアナゴ生活史研究の最前線と資源管理 I-4. 稚魚期の生態	日本水産学会誌 85 (1), 80.	五利江重昭	水産増殖部

(2) 学会等講演会

発表年月	内 容	学会名・提供先	提 供 者 名	所 属
H30. 11	イカナゴの新子はほんとうに痩せてきているのか	水産海洋地域研究集会 第1回東部瀬戸内海研究集会	反田 實	
H30. 9	2009～2016年の日本海但馬沖における植物プランクトン群集の季節変動	2018年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会	西川哲也・渡辺剛・原田和弘	水産環境部ほか
H30. 11	播磨灘における夏眠期のイカナゴ肥満度	水産海洋地域研究集会 第1回東部瀬戸内海研究集会	西川哲也	水産環境部
H31. 3	播磨灘産イカナゴの夏眠直後の肥満度はなぜ経年的に低下しているのか？	平成31年度日本水産学会春季大会	西川哲也・中村行延・岡本繁好	水産環境部ほか
H30. 11	大阪湾・播磨灘におけるイカナゴの資源動向～資源の持続的利用を図るためには～	水産海洋学会地域研究集会第1回東部瀬戸内海研究集会	魚住香織	水産環境部
H31. 3	播磨灘産におけるイカナゴの産卵ポテンシャルの年変動	平成31年度日本水産学会春季大会	魚住香織・西川哲也・中村行延・岡本繁好	水産環境部ほか

(3) 研究会・資料集等

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
H31. 3	浅海定線観測結果	瀬戸内海ブロック平成30年度浅海定線観測等担当者会議議事録(抄)	原田和弘・宮原一隆	水産環境部
H31. 3	下水処理放流水に含まれる溶存態無機窒素(DIN)がノリ漁場に与える影響	水産研究開発成果情報	原田和弘・宮原一隆・阿保勝之・川崎周作・竹迫史裕	水産環境部ほか
H30. 9	兵庫県内海における2017年および2018年の漁況	第49回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議報告	西川哲也・魚住香織	水産環境部
H30. 11	兵庫県におけるノリ養殖等の概況および試験研究項目	平成30年度瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議・藻類情報交換会	谷田圭亮	水産増殖部
H31. 3	播磨灘北西部における陸域からの栄養塩供給が二枚貝養殖漁場の生産力に及ぼす影響の解明	平成30年度漁場環境改善推進事業「栄養塩の水産資源に及ぼす影響の調査」成果報告書	岡本繁好・原田和弘・宮原一隆	水産増殖部ほか
H30. 10	直近のブリ漁況(兵庫県但馬)	第58回ブリ資源評価・予報技術連絡会議報告	鈴木雅巳	但馬水技

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
H31. 3	兵庫県におけるローカルサーモンの成分分析について	水産物の利用に関する共同研究 第59集	川村芳浩	北部農業・加工流通部

(4) 研究会（大会・研究会）等講演

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
H30. 4	栄養塩環境と漁業	大輪田塾	反田 實	
H30. 5	栄養塩と漁業	日本青年会議所水産部会	反田 實	
H30. 5	瀬戸内海の漁場環境と豊かな海づくりの取り組み	山口県瀬戸内海環境保全協会	反田 實	
H30. 6	豊かな海について考える	但馬地区漁協女性部連合会通常総会	反田 實	
H30. 6	海の環境とイカナゴ漁業	漁港漁場事業研修会	反田 實	
H30. 7	兵庫県瀬戸内海の栄養塩環境と漁業生産	兵庫県漁連・環境省	反田 實	
H30. 8	最近の瀬戸内海の環境と水産業	明るい水産業を創る会	反田 實	
H30. 10	瀬戸内海の漁場環境とイカナゴ漁	兵庫県漁連・水産庁	反田 實	
H30. 11	瀬戸内海の漁場環境と漁業～瀬戸内海東部海域を中心に～	熊本県議会	反田 實	
H30. 12	栄養塩管理と漁業生産	全国水産技術者協会 創立10周年記念シンポジウム	反田 實	
H31. 3	平成31年度再生事業について	豊かな瀬戸内海再生調査事業検討会	反田 實	
H30. 8	播磨灘の水質環境変化による漁業生産への影響とその対策	広島県先進地視察研修	原田和弘	水産環境部
H30. 11	播磨灘のノリ養殖漁場への栄養塩供給に関する取り組み	熊本県議会特別委員会視察	原田和弘	水産環境部
H30. 11	下水処理水に含まれるDINがノリ漁場に与える影響	第48回南海・瀬戸内海洋調査技術連絡会	原田和弘	水産環境部
H30. 5	最近の赤潮発生状況について	赤潮対策連絡会議幹事会	宮原一隆	水産環境部
H30. 11	近年の海況条件に対応した赤潮予察技術の開発	農政環境部課室長会話題提供	宮原一隆	水産環境部
H30. 12	兵庫県における赤潮・貝毒の発生状況	平成30年度漁場環境保全関係研究開発推進会議赤潮貝毒部会	宮原一隆	水産環境部
H30. 12	2018年春季の貝毒原因プランクトンの大量発生と二枚貝の毒化	兵庫県貝毒安全対策連絡協議会	宮原一隆	水産環境部
H31. 1	平成30年度ノリ漁期における <i>Eucampia zodiacus</i> の発生予察とその他の情報	養殖ノリの色落ち中期予測等情報交換会	宮原一隆	水産環境部
H30. 4	兵庫県内海における2017年および2018年の漁況	第49回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議	西川哲也・魚住香織	水産環境部
H30. 5	近年のイカナゴの不漁要因について	育波浦漁業協同組合役員、ヤザラ会委員	西川哲也	水産環境部
H30. 8	イカナゴを指標種とした豊かな瀬戸内海再生調査事業の現状と課題	イカナゴおよびカタクチイワシ等の資源・生態・行動に関する情報交換会	西川哲也	水産環境部
H30. 9	播磨灘における夏眠期のイカナゴ肥満度	平成30年度豊かな瀬戸内海再生調査事業第1回勉強会	西川哲也	水産環境部

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
H30. 8	2018年漁期兵庫県イカナゴ漁について	イカナゴ瀬戸内海東部系群に係る平成30年度第1回情報交換会	魚住香織	水産環境部
H30. 8	イカナゴ調査研究 ～その特性と課題～	イカナゴおよびカタクチイワシ等の資源・生態・行動に関する情報交換会	魚住香織	水産環境部
H30.10	大阪湾・播磨灘におけるイカナゴの資源動向～資源の持続的利用を図るためには～	平成30年度兵庫県豊かな瀬戸内海再生調査事業勉強会	魚住香織	水産環境部
H31. 2	今漁期のイカナゴ親魚・稚仔調査結果について	播磨灘船曳網漁業連合会正副会長・行使委員・地区代表者会議	魚住香織・西川哲也	水産環境部
H31. 2	今漁期のイカナゴ親魚・稚仔調査結果および漁況予報について	平成31年漁期第1回大阪湾3地区船曳役員合同会議	魚住香織・西川哲也	水産環境部
H31. 2	今漁期のイカナゴ親魚・稚仔調査結果および漁況予報について	平成31年漁期いかなご船びき網漁業の操業に関する打合せ会議	魚住香織・西川哲也	水産環境部
H30. 9	「鹿ノ瀬」海域の漁場機能の再評価について	漁場整備事業担当者会	五利江重昭	水産増殖部
H30.10	平成29年9月～平成30年8月魚病発生状況	平成30年度瀬戸内海・四国ブロック魚病検討会	中村行延	水産増殖部
H30.10	ヒラメの中間育成で発生したヒラメラブドウウイルス病	平成30年度瀬戸内海・四国ブロック魚病検討会	中村行延	水産増殖部
H30.11	平成29年度及び平成30年度上半期・魚病診断状況	平成30年度(第20回)西部日本海ブロック魚類防疫対策協議会	中村行延	水産増殖部
H30.11	ヒラメの中間育成で発生したヒラメラブドウウイルス病	平成30年度(第20回)西部日本海ブロック魚類防疫対策協議会	中村行延	水産増殖部
H30. 6	温暖化に対応したワカメの種苗づくり	ADAP-T H08 チームワークショップ2018 視察研修	岡本繁好	水産増殖部
H30.11	養殖カキのブランド化に向けた集団選抜育種	農政環境部課室長会話題提供	谷田圭亮	水産増殖部
H30.11	来る平成30年度漁期にむけて～育苗～本張り期ののり養殖管理	神戸市のり協議会 平成30年度海苔養殖漁期前研修会	谷田圭亮	水産増殖部
H31. 1	平成30(2018)年漁期 これまでの経過	養殖ノリの色落ち中期予測等情報交換会	谷田圭亮	水産増殖部
H30. 6	平成29年度試験研究結果及び平成30年度試験研究課題について	兵庫県内水面漁場管理委員協議会	増田恵一	内水面
H30. 6	魚病に関する情報交換	平成30年度全国養鱒技術協議会魚病対策研究部会	増田恵一	内水面
H30.11	兵庫県内水面養殖における魚病診断件数の推移	第32回近畿中国四国ブロック内水面魚類防疫検討会	増田恵一	内水面
H31. 2	平成30年度のニジマス魚病発生状況について	平成30年度ニジマス魚病防疫講習会	増田恵一	内水面
H30. 6	ズワイガニの資源動向に関する情報提供	兵庫県機船底曳網漁業協会平成30年度第1回役員会	大谷徹也	但馬水技

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
H30. 7	ズワイガニの資源動向と自主規制検討材料に関する情報提供	平成 30 年度機船底曳網漁撈長会	大谷徹也	但馬水技
H30. 7	兵庫県における近年の底魚関連調査紹介	第8回西日本底びき網漁業勉強会	大谷徹也	但馬水技
H30. 7	平成 30 年度ベニズワイ資源調査結果と資源管理の方向性	平成 30 年度兵庫県ベニガニ協会通常総会	大谷徹也	但馬水技
H30. 7	ズワイガニ漁況と調査結果の概要	平成 30 年度ズワイガニ研究協議会	大谷徹也	但馬水技
H30. 8	但馬沖ベニズワイの漁獲と資源の現状	香住水産加工業共同組合ベニガニに関する説明会	大谷徹也	但馬水技
H30. 8	平成 30 年度底びき漁期前調査結果	平成 30 年度底びき漁期前調査結果説明会	大谷徹也	但馬水技
H30. 10	平成 29 年漁期のアカガレイ漁況と資源調査結果の概要・平成 29 年漁期のズワイガニ漁況と調査結果の概要	平成 30 年度あかがれい・ずわいがに広域資源管理検討協議会	大谷徹也	但馬水技
H30. 7	県産ローカルサーモンの成分分析について	第 66 回日本海水産物利用担当者会議	川村芳浩	北部農業・加工流通部
H30. 11	イワガキの天然採苗に関する取組み	平成 30 年度西部日本海ブロック増養殖担当者会議	田村一樹	但馬水技

(5) ニュース・情報誌等

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
H30. 6	今漁期の問題点と今後の対応（瀬戸内地区）	海苔タイムス 2279 号	谷田圭亮	水産増殖部
H30. 9	来たる漁期の生産対策（瀬戸内地区）	海苔タイムス 2290 号	谷田圭亮	水産増殖部
H31. 3	イカナゴ資源の減少要因と回復の取組み	エコひょうご 91 号	反田 實	

(6) センターだより

名 称	号数	提 供 者 名	所 属
水産技術センターだより			
漁海況情報	12	長濱達章	水産環境部
漁場環境情報	12	原田和弘・宮原一隆	水産環境部
カタクチイワシ卵稚仔調査結果（播磨灘）	7	西川哲也	水産環境部
カタクチイワシ卵稚仔調査結果（大阪湾・紀伊水道）	3	魚住香織	水産環境部
イカナゴ親魚、稚仔分布調査結果	2	西川哲也・魚住香織	水産環境部
イカナゴシンコ漁況予報	1	西川哲也・魚住香織	水産環境部
水温観測情報	51	都倉由樹	水産環境部
貝毒情報	86	宮原一隆・都倉由樹	水産環境部
赤潮情報	12	宮原一隆・都倉由樹	水産環境部
ノリ養殖環境速報（播磨灘）	16	原田和弘・宮原一隆・都倉由樹・のり研究所	水産環境部・のり研究所
ノリ養殖環境速報（大阪湾）	6	谷田圭亮・岡本繁好・都倉由樹・のり研究所	水産増殖部・水産環境部・のり研究所
カキ漁場環境情報	16	谷田圭亮・宮原一隆	水産増殖部・水産環境部
但馬水産技術センターだより			
海況情報	33	鈴木雅巳	但馬水技
漁況情報	21	鈴木雅巳・大谷徹也	但馬水技
貝毒情報	3	鈴木雅巳・肥後翔太	但馬水技・但馬水産事務所
漁況速報	52	鈴木雅巳	但馬水技
イカ漁況日報	162	鈴木雅巳	但馬水技

(7) 雑誌等

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
H30. 11	兵庫県におけるアサリ垂下養殖 人工種苗の安定供給でブランド化	養殖ビジネス 2018. 11	安信秀樹	水産増殖部
H31. 1	マアナゴ生活史研究の最前線と資源管理 稚魚期の生態	月刊海洋 61, 21-24	五利江重昭	水産増殖部

(8) 技術書籍等

なし。

(9) 新聞

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
H30. 5	海の天気図 浜だより～沖合底びき網漁業終了と沿岸漁業盛漁期～	日本海新聞	鈴木雅巳	但馬水技
H30. 8	海の天気図 浜だより～ソデイカの漁模様～	日本海新聞	鈴木雅巳	但馬水技
H30. 11	海の天気図 浜だより～ズワイガニ漁の解禁～	日本海新聞	鈴木雅巳	但馬水技
H31. 2	海の天気図 浜だより～2018年の漁期とりまとめ(速報値)～	日本海新聞	鈴木雅巳	但馬水技

(10) テレビ・ラジオ

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
H30. 10	マダコの不漁について	TBS	長濱達章	水産環境部
H30. 10	マダコの不漁について	関西テレビ	長濱達章	水産環境部
H30. 10	マダコの不漁について	毎日放送	長濱達章	水産環境部
H30. 10	マダコの不漁について	サンテレビ	長濱達章	水産環境部
H30. 10	マダコの不漁について	NHK 神戸放送局	長濱達章	水産環境部
H30. 10	マダコの不漁について	テレビ大阪	長濱達章	水産環境部
H31. 1	マダコの不漁について	朝日放送	堀 豊	
H31. 2	イカナゴ漁の解禁と海域の貧栄養化	毎日放送	西川哲也	水産環境部

(11) インターネット・ホームページ

発表年月	内 容	提 供 先	提 供 者 名	所 属
H30. 6	センター雑感 理想的な海の環境って…	兵庫県立農林水産技術総合センター	原田和弘	水産環境部
H31. 2	センター雑感 さかな屋さんのひとりごと 「よく似てるけど実は別もの(カレイ編)」	兵庫県立農林水産技術総合センター	森 俊郎	但馬水技

3 見学会及び研究発表会

(1) 見学会

なし。

(2) 研究発表会

ア 日 時

平成30年10月24日14時～16時

イ 場 所

兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター

ウ 課 題

2018年春季の貝毒原因プランクトンの大量発生と二枚貝の毒化

(発表者：水産技術センター水産環境部主席研究員 宮原一隆)

ヒラメのウイルス病について

(発表者：水産技術センター水産増殖部主席研究員 中村行延)

淡路島の一次産業活性化に向けた取組

(発表者：淡路地区漁協青壮年部連合会会長 山崎大輔)

ベニズワイ資源をいつまでも ～但馬沖での漁獲・加入動向と資源管理～

(発表者：但馬水産技術センター主席研究員 大谷徹也)

4 特許・実用新案出願・登録状況

【国特許】

職務 発明	提出年月日 認定年月日	特許 登録	出願年月日 登録年月日	内 容	備 考
H10. 7. 17 H11. 2. 24		H11. 3. 16 H20. 3. 6		ホタルイカの眼球除去具及びこれを用いた眼球除去装置	H12. 9. 26 出願公開 H18. 2. 21 審査請求
H11. 8. 9 H11. 10. 26		H11. 8. 9 H19. 12. 14		軟弱魚の冷凍保存方法及びそれを用いた佃煮の製造方法	H13. 2. 20 出願公開 H18. 8. 4 審査請求
H13. 12. 25 H14. 6. 10		H13. 7. 16		灰干しわかめ用の疑似灰	H14. 11. 5 出願公開 H20. 7. 17 審査請求 取り下げ
H17. 1. 21 H17. 2. 25		H18. 5. 18 H23. 12. 2		水産加工残さを用いた漁業用餌料の製造方法	H19. 11. 29 出願公開 H20. 3. 9 審査請求
H21. 4. 3 H21. 5. 18		H21. 6. 1 H24. 4. 4		養殖ノリ「ひょうごはりま薫黒」の品種登録出願	H21. 11. 30 出願公表
H22. 10. 22 H22. 10. 25		H23. 1. 31 H25. 7. 12		バラ干し海苔の製造方法	H23. 2. 21 審査請求 H24. 8. 24 特許公開
H27. 4. 13 H27. 5. 20		H27. 10. 15		カキの採苗器	H29. 4. 20 出願公開 H30. 9. 19 審査請求

発明（出願特許）の概要

発 明 の 名 称	発 明 の 概 要
ホタルイカの眼球除去具及びこれを用いた眼球除去装置	ホタルイカの眼球を能率良く除去することができるホタルイカの眼球除去具及びこれを用いた眼球除去装置を提供する。 閉脚状態から開脚状態に弾性的に変形可能な双脚の先端に、ホタルイカの頭部に押しつける押圧部を設けた。押圧部をホタルイカの頭部に押しつけることにより、当該頭部から1対の眼球を押し出し、この押し出した眼球を双脚の開脚に伴って頭部から切り離す。
軟弱魚の冷凍保存方法及びそれを用いた佃煮の製造方法	解凍時に腹切れや身崩れなどの品質低下を起し難い軟弱魚の冷凍保存方法及びこれを用いた佃煮の製造方法を提供する。 軟弱魚に有機酸塩と糖類を含浸させた後、当該軟弱魚を冷凍する。この冷凍された軟弱魚を自然解凍した後、糖分を含む調味液に入れて煮熟する。
灰干しわかめ用の疑似灰	従来の木灰に比べて全く遜色のない性状を有する灰干しわかめ用の疑似灰を提供する。 粉炭からなる黒色粉末と、穀類、根菜類、セルロース、カルシウム及び不溶性鉱物性物質から選択される1種または2種以上からなる白色粉末と、アルカリ剤とを混合して、灰色にてアルカリ性を示す粉末とした。
水産加工残さを用いた漁業用餌料の製造方法	水産加工工場から排出される加工残さを加熱・破碎・濃縮・成型し、低コストで漁業用餌料にする処理方法を提供する。 数種類の水産加工残さを一定の割合で混合して加熱・破碎・濃縮し、水分活性を調整することで保存性を高めるとともに、混合割合と水分量を調整し残さだけで成型できることを特徴とする水産加工残さの有効利用方法と漁業用餌料の製造方法。
養殖ノリ「ひょうごはりま薫黒」の品種登録出願	成熟は晩熟で、生長が速く、葉形は線形である。色調は色調低下時に黒い傾向がある。兵庫本来の「色・艶」を兼ね備えており、県産ノリの用途として主力である業務用ノリに適した特性を有している。

発明の名称	発明の概要
バラ干し海苔の製造方法	<p>バラ干し海苔の色の見た目の色の改善を図り、長期間冷凍保存をしても品質や鮮度が劣化しないバラ干し海苔の製造方法を提供する。</p> <p>バラ干し海苔の製造方法は、採集した原藻を熱湯に浸漬し湯引かせる湯引き工程、次に、脱水工程、その後、乾燥工程、から成る。これに加えて、原藻を湯引き後に凍結保存を行うことにより、原料として長期保存が可能となり、時期・量を問わずバラ干し海苔を供給できる。本バラ干し海苔の製造方法によれば、バラ干し海苔の保存性や風味を向上できる。</p>
カキの採苗器	<p>本県で開発したアサリの中間育成カゴのフタの裏側に著しく天然カキが付着することに着眼し、フタとメッシュの部分を取り出したもの。メッシュ状の開口部を有するプラスチック製の板とメッシュシートの組み合わせによって形成される空間において、侵入してきた浮遊幼生が主にプラスチック製の板に付着する現象が確認できた。この板はポリエチレン製で、目合い1cmのメッシュとなっており、容易に変形することができるため、付着したカキ種苗を剥離することが容易で、シングルシードカキとしての種苗化が可能である。また、プラスチック製の板とメッシュシートで形成された幅の狭い場所で付着することで、甲殻類や魚類による食害も防止できる利点がある。</p>

5 学位・表彰等

なし。

6 研究員の派遣

なし。

7 研修生・見学者の受け入れ

(1) 一般研修生の受け入れ

氏名	所属	研修課題	期間	受け入れ部門
蓬萊沙織 植田英津子	朝来農業改良普及センター 丹波農業改良普及センター	平成30年度普及指導員研修 技術強化研修Ⅱ ～水産加工技術の基礎～	H30.9.3 (1日間)	但馬水技

(2) トライやるウィーク体験事業

氏名	研修課題	期間	受け入れ部門
衣川中学校、大蔵中学校、野々池中学校、望海中学校、大久保中学校、高丘中学校、魚住中学校、魚住東中学校各1名 計8名	展示施設設営、水質環境観測実習、プランクトン検鏡、捕獲生物観察、シラス生物測定、イカナゴ耳石観察、マガキの採卵 アサリの産卵誘発 ほか	H30.6.4～6.8 (5日間)	水産環境部、水産増殖部
香住第一中学校5名(5日間)+5名(1日)	干製品加工試験、プランクトン採取観察、生物測定、サザエ選別・測定作業、ベニ調査艀装の解除作業、ロープワーク、煮干し解体	H30.6.4～6.8 (5日間)	但馬水技、北部農業・加工流通部
浜坂中学校5名 (浜坂漁協との共同)	ハリセンボン提灯加工作業	H30.5.29 (1日間)	但馬水技

(3) 受託研修・国際交流課からの依頼による研修の受け入れ

なし。

(4) 見学者の受け入れ

【水産技術センター】

年.月	件数	人数 (合計)	人数 (内訳)			
			漁業 関係	学校 関係	行政 関係	一般 県民
H30. 4	4	60	2	44	0	14
5	4	327	0	300	0	27
6	8	484	24	393	4	63
7	7	409	0	342	0	67
8	10	241	18	0	1	222
9	11	880	0	880	0	0
10	23	1762	32	1690	16	24
11	18	969	12	910	25	22
12	2	288	0	288	0	0
H31. 1	3	188	7	181	0	0
2	4	288	0	216	0	72
3	3	69	0	0	0	69
合計	97	5,965	95	5,244	46	580

【内水面漁業センター】

年.月	件数	人数 (合計)	人数 (内訳)			
			漁業 関係	学校 関係	行政 関係	一般 県民
H30. 4	35	61	31	0	4	26
5	31	47	11	6	2	28
6	35	170	0	116	3	51
7	43	110	1	0	12	97
8	23	58	0	0	1	57
9	19	32	0	0	4	28
10	39	72	0	22	8	42
11	29	79	18	28	6	27
12	17	27	0	0	2	25
H31. 1	34	45	0	0	3	42
2	37	61	0	22	5	34
3	30	42	0	0	13	29
合計	372	804	61	194	63	486

【但馬水産技術センター】

年.月	件数	人数 (合計)	人数 (内訳)			
			漁業 関係	学校 関係	行政 関係	一般 県民
H30. 4	2	14	0	0	0	14
5	2	37	0	37	0	0
6	5	30	0	30	0	0
7	2	21	0	21	0	0
8	1	8	8	0	0	0
9	1	4	0	0	4	0
10	0	0	0	0	0	0
11	3	18	0	0	6	12
12	1	6	0	0	0	6
H31. 1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0
3	1	5	0	0	0	5
合計	18	143	8	88	10	37

【但馬水産技術センター】

(北部農業技術センター農業・加工流通部 担当分)

年.月	件数	人数 (合計)	人数 (内訳)			
			漁業 関係	学校 関係	行政 関係	一般 県民
H30. 4	9	12	4	0	8	0
5	8	10	3	6	1	0
6	11	15	8	5	0	2
7	4	4	3	0	1	0
8	1	1	1	0	0	0
9	12	12	5	0	7	0
10	6	6	2	0	2	2
11	3	3	2	0	0	1
12	4	4	2	0	0	2
H31. 1	8	8	8	0	0	0
2	6	6	5	0	1	0
3	4	4	4	0	0	0
合計	76	85	47	11	20	7

(加工相談のうち来訪分)

8 資格・認定研修への講師派遣

(1) 水産加工食品製造業技能評価試験への試験官派遣

主催者：全国水産加工業協同組合連合会

試験官・(部署)：森 俊郎 (但馬水産技術センター)

参集範囲：但馬管内の水産加工業者

時期	人数	試験内容
2018. 5. 30	16名	(初級) 調味加工品4名 塩蔵品3名 乾製品9名
2018. 5. 31	9名	(専門級) 調味加工品9名
2018. 7. 18	7名	(初級) 乾製品7名
2018. 9. 14	5名	(初級) 調味加工品1名 乾製品4名
2019. 2. 8	3名	(初級) 調味加工品3名
2019. 2. 8	6名	(専門級) 乾製品6名
2019. 3. 6	6名	(専門級) 調味加工品6名

9 その他 (出版物等)

なし。

